

業 務 速 報

NO. 752

2011. 3. 24

J R 東海労働組合

発行 淵上 利和

編集 加藤 光典

2011年賃金引き上げ、夏季手当、再申し入れ団体交渉

満額回答で日本経済の閉塞感を打ち破り、東日本大震災における被災者への救援・救助を！

3月24日、本部は2011年賃金引き上げ、夏季手当の再申し入れ（申第33号）に対する団体交渉を開催しました。しかし、会社は「景気の動向・賃金水準・業績・世間相場・他企業回答の動向など」を理由に、社員の労苦に応える姿勢を全く示しませんでした。

支援・救援要求を議論しないと突き放す！

1. ベアゼロ回答を撤回し、基本給を全員一律3,700円引き上げること。

【回答】

その様な考えはない。

2. 定期昇給については、基準昇給額を一律1,200円とし、現等級経過年数に応じた基準昇給額の減額は撤廃すること。

【回答】

その様な考えはない。

3. 安全・安定輸送を支える社員の努力に応えるために、2.9ヶ月とする夏季手当の回答は撤回し、3.2ヶ月分とすること。

【回答】

平成23年度夏季手当については、3月17日に回答した通りであり、これを撤回する考えはない。

満額回答で経済の閉塞感を打ち破り、被災地への復興を！

- 組合：東日本大震災に対して労働組合として復興に全力をつくす。被災地への復興や日本経済の閉塞感を打ち破るために、ベア3,700円実施・基準昇給額一律1,200円完全実施・夏季手当3.2ヶ月を支給することが大事である。また、J R東海会社として義援金の取り組みなど被災地復興へ向けた取り組みを行うのか。
- 会社：ここは申33号での団体交渉の場あるので、議論しない。
- 組合：全く考えていないのか。
- 会社：議論しない。
- 組合：J R東海会社としての被災地復興へ向けた取り組みに対する、細部申し入れを後日行う。日本経済の閉塞感を打ち破るために、ベアを実施すべきである。
- 会社：ベアについては、交渉中であり景気の動向・わが社の高い賃金水準・業績・世間相場・他企業の回答動向・大震災により更に不透明な景気動向・新幹線輸送のマイナス動向を勘案して、ベアは出せない。
- 組合：新幹線輸送について、実感として感じられないが、どの位落ち込んでいるのか。
- 会社：昨年同時期に比べ、相当落ち込んでいる。
- 組合：輸送概況や駅における出口調査ではどうか。
- 会社：相当落ち込んでいる。
- 組合：この落ち込みは年度末にも如実に現れてくるのか。
- 会社：当然、現れてくる。夏季手当の2.9ヶ月は、会社が精一杯努力し回答したものである。
- 組合：単体での経常利益や純利益は、史上5番目で高い。
- 会社：その通りである。
- 組合：決して悪くはない。この利益は社員の努力によるものであり、会社はこの努力を認めてベアの実施、夏季手当3.2ヶ月完全支給せよ。
- 会社：世間相場と何ら遜色ないものと考えている。

基準昇給額一律1,200円、標準乗数4を完全実施せよ！

- 組合：中労委の平成22年度の調査で、一人平均5,951円の賃上げ結果が出ているが、J R東海は最高でも4,800円、今年は3,200円しか昇給しない社員も存在し、ますます格差が拡大する。
- 会社：一概には言えない。昇格時に昇給を厚くしている。
- 組合：組合として実感できない。4,000円以下となっている組合員がほとんどである。
- 会社：わが社の賃金制度は昇格を目標にする制度である。
- 組合：トヨタの昇給は7,300円であり、昇格時にも上がると聞いている。しかし、わが社では最高でも4,800円であり、トヨタから見ればかなり低い。
- 会社：昇格時に昇給するので、高い金額と言える。
- 組合：4,800円貰えない社員は半数以上存在する。その上、毎年逡減され400円になってしまう。
- 会社：ですから昇格試験に合格してほしい。
- 組合：試験の可否は会社の裁量であり、努力した社員が報われない。

会社：公正・公平に試験を実施していく。

組合：会社が認めないと昇格できない。したがって、社員のやる気がそがれていく。

会社：昇格を目指してもらおう。

組合：年間の昇格数が決められており、努力した者が報われる制度とはなっていない。
基準昇給額一律1,200円、標準乗数4を完全実施せよ。

組合：景気の動向はどう転ぶかわからない。

会社：需要がプラスよりもマイナス要素が上回っている。しっかりと見極めていかなければならない。

組合：海外からは円が重く見られている。円売りもされているので、復興の力は充分あると考えている。現在だけではなく、もっと先を見て判断して、明るい兆し見いだすために、満額回答を再考せよ。

夏季手当は3.2ヶ月満額支給せよ！

組合：ボーナスの原資は。

会社：2.9ヶ月で35歳ポイントで914,000円である。

組合：総額はいくらか。

会社：総額については通知する考えはない。これまで通り。

組合：35歳ポイント×社員数となるのか。

会社：それについては示す考えはない。

組合：今回「回答に当たって」を文書で示したが、珍しいことである。

会社：ボーナスについてはこれに書いてある通りである。

組合：35歳ポイントで315,000円である。組合要求は3.2ヶ月である。回答の差が、0.3ヶ月であり、これに乗じて一人分94,500円である。全社員を乗じると、総社員にすると約18億円の額になると思う。これくらいならば可能である。

会社：交渉でも言ったが、支払えないというわけではない。ボーナスについては、会社の業績であるとか、現在の賃金水準であるとか、貴側の要望も踏まえて判断していく。今回については2.9ヶ月とした。

組合：本当に社員の努力に報いるのであれば、今回上方修正した部分の純利益の100億円この5分の1にも満たない額を支給してもいいのではないか。東海労の要求は実現できる。本当に、社員の努力組合員の努力に応えるのなら3.2ヶ月を出すべきだ。

会社：会社としては社員の努力に応え、精一杯の2.9ヶ月とした。

組合：今後の震災の復興を含めて、現状をどう改善をしていくかということを含めて、会社は社員に期待を期待をしている。

会社：回答した通りである。

組合：それには社員のやる気が大事である。そのためにはどう考えているのか。震災の支援の協力なども含めて、われわれとしてはベアの実施、昇給逡減の撤回、ボーナスの満額回答が、何よりの薬になると考えている。併せて今回の震災の復興の取り組みでは、ある意味世界に冠たるJR東海の真価が問われることである。その中でも、JR東海の社員も問われる。その意味で、社員の意欲を高めることも含めて3項目の回答に対して、再考するよう主張する。

会社：会社側の見解はこれまで申し上げた通りである。日本の大動脈輸送を担うという使命は回答書に書いてある通りである。

組合：再考する考えはないのか。

会社：そのような考えはない。

組合：持ち帰って考える気もないのか。ベアも上げない。昇給は最高でも4,800円である。夏季手当も2.9ヶ月である。この未曾有の大震災に対して、J R 東海として何ができるのか真剣に考えて、社会に貢献すべきである。社員のやる気を出すためにも満額回答をすべきである。震災に向けて会社は、考えているのか。

会社：その件については賃金に対する団体交渉であるから議論しない。

組合：会社の回答については、対立である。持ち帰り検討とする。

以 上